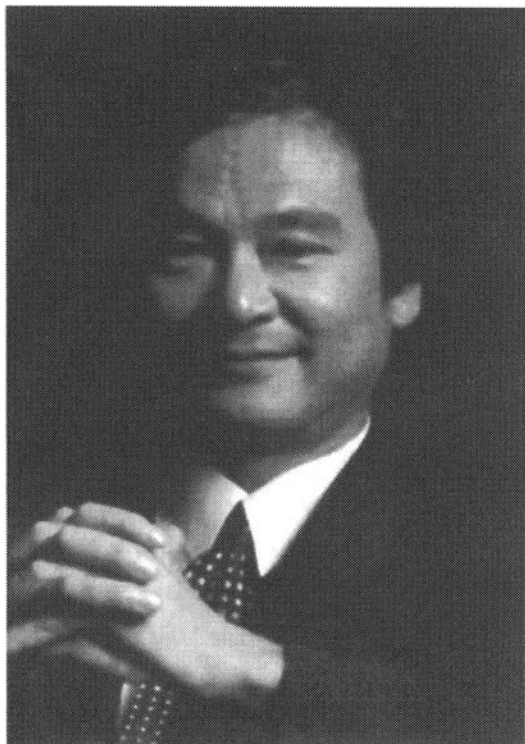


慶應義塾大学学術情報リポジトリ  
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	Preface
Author	富田, 勝(Tomita, Masaru)
Publisher	慶應義塾大学湘南藤沢学会
Jtitle	生命と情報 No.21 (2014. ), p.6- 7
Abstract	
Genre	Technical Report
URL	<a href="http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO92001004-00000021-0006">http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO92001004-00000021-0006</a>

# Preface



本論文集は、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）先端生命科学研究室および鶴岡タウンキャンパス（TTCK）先端生命科学研究所の学生論文要旨集です。

2014年度も多くの学生が活躍して様々なアワードを受賞しました。

吉田勇太君（修士2年）が、網羅的なゲノム情報と遺伝子発現を解析することによってユグレナの代謝のしくみを明らかにしたことから相磯賞を受賞しました。また、石井千晴君（博士1年）が、マレーシアで開催されたICOBM(International conference of beneficial microbes)のポスターアワードで1st Runner-Up（2位）を受賞。吉田勇太君（修

士2年）が、筑波大学で開かれたユグレナ研究会にて若手優秀発表賞を受賞。石野響子君（環境4年）が、SFC Open Research Forumの卒業プロジェクト発表会において見事最優秀賞を受賞。さらに、小川隆君（博士3年）が所属するMOLECUREが、第一回バイオサイエンスグランプリにおいて三井不動産賞を受賞するなど、数々の受賞が見られました。

また、石井千晴君（博士1年）が上記の業績によりSFC STUDENT AWARDを受賞。同時に、伊藤優太郎君（総合4年）、石野響子君（環境4年）、牧野岳都君（環境4年）、辛承宰君（環境4年）の卒業論文がそれぞれ優秀卒業プロジェクトを受賞。

研究室内の表彰としては、郭セイ君（修士2年）、吉田勇太君（修士2年）が優秀修士論文賞、川本夏鈴君（環境4年）、小林朝紀君（環境4年）が優秀賞、吉田祐貴君（環境3年）、渡部翔君（環境3年）、吉川実亜君（環境3年）、中宿文絵君（環境2年）、小山智己君（環境2年）、岩崎みどり君（環境1年）、増山七海君（環境1年）が奨励賞を受賞しました。おめでとうございます。

バイオインフォマティクスと実験生物学の融合を目指して、2001年4月に山形県の慶應大学鶴岡キャンパスに先端生命科学研究所を開設してから、今年で14年目になります。2007年度からSFC大学院の政策メディア研究科の「バイオインフォマティクスプログラム」は「先端生命科学プログラム（英語名：Systems Biology Program）」に改名し、また環境情報学部でもバイオ系科目が充実しました。このカリキュラムの目玉はなんと言っても、一

年間鶴岡キャンパスに滞在して毎日実験実習を集中的に体験できる「バイオキャンプ」です。毎学期15名程度の学生が参加していますが、バイオキャンプに参加した学生のうち多くはその後鶴岡に短期・長期に滞在し、世界最先端の施設を利用してバイオ実験を行っています。

システム生物学という新たな切り口で先端技術を開発し、それらを駆使して生命科学、医学、環境科学のブレイクスルーを目指す。それはチャレンジングでとても楽しいことであり、なにものにも替えがたい究極の贅沢だと考えています。

“Science is ultimate amusement”

2015年3月吉日

富田 勝

